

平成31年度（令和元年度）
こころ医療福祉専門学校
学校自己評価結果報告書

令和2年4月1日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

1. 学校の教育目標 平成31年度(令和元年度)

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン 「粘り強く、面倒をみる学校づくり」
- 4 重点教育目標
 - (1) 国家試験合格率及び就職率100%の達成
 - (2) 「授業の充実」と「教育の質」向上
 - (3) 「委員会制」導入による学校活性化
 - (4) 留学生事業の充実とJLPT2級・3級合格者の増加
 - (5) 学校体制として取り組む学生募集-最低確保学生数:130名
- 5 具体的な対策
 - (1) 授業の充実と教育の質の向上
 - (2) 豊かな人間力の育成
 - (3) 退学者・不登校生の減少対策
 - (4) 留学生教育の質の向上
 - (5) 国家試験・進路指導の充実
 - (6) 「攻めの学生募集」の推進
 - (7) 「委員会制」の導入による学校活性化
- 6 地域社会との関係
 - (1) ビジョンの具体化
 - (2) 関係各校、機関、施設との連携強化

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 授業の充実と教育の質の向上
- (2) 豊かな人間力の育成
- (3) 退学者・不登校生の減少対策
- (4) 留学生教育の質の向上
- (5) 国家試験・進路指導の充実
- (6) 「攻めの学生募集」の推進
- (7) 「委員会制」の導入による学校活性化

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は, 学生便覧等にも掲載され明確である。「等しく可能性を信じ」, 「専門分野の深い知識」のみならず, 「誠実, 気力, 知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく, 人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される人材を輩出することで社会に貢献することが目的である。
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	各学科とも専門的な経験を積んだ専任教員を中心に, 各業界との連携を重視し, 理論と実践のバランスのとれた教育を実施している。各業界の現場で活躍する非常勤講師を豊富に揃え, 学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。 【教職員アンケート 質問2 2.75】
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後, さらに進行する少子高齢化に備え, 老人福祉施設, 医療機関や地域社会との密接な連携を推進し, 社会のニーズに合った将来を見通した学校経営をしている。 【教職員アンケート 質問3 3.11】
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて, また, 入学後も保護者説明会, オリエンテーション, 定期的校内広報紙, HPでの情報公開等を通じて, 繰り返し周知を図っている。全校生に対する学生アンケートを利用して, 周知状況は確認している。学生や保護者などからの, 周知不足によるクレームはない。 【教職員アンケート 質問4 2.29】 【学生アンケート 質問1 2.59】 平均 2.44
・各学科の教育目標, 育成人材像は, 学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり, 各学科と関連業界との情報交換は年間を通じての分科会も設定するなど, 年々充実しており, 将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように, 各学科ごとのディプロマポリシーを定めている。 【教職員アンケート 質問5 2.71】

①課題

教職員に対する「学校理念」, 「学校の将来構想」などインナーブランディングが不足している。
そのため, 学生に対しても, 学校の目指す育成人材像が明確にできていない。

②今後の改善方策

教職員に対するブランディングを再構築していく。
「地域の医療・福祉を包括的に支援する」こととは何か。
学校の存在価値を考えていく研修を行う。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の病院、福祉施設、整骨院等の業界との連携を密にし、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関となるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 2.61】
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 2.93】
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。

①課題

各種会議及び委員会は定期的な開催できているが、計画性や意思決定については課題が残る。次年度は、年間活動目標及び計画を事前に示して、組織として機能する学校づくりを目指す。

②今後の改善方策

校内新グループウェア(KokoroNet)を運用を開始しており、業務効率を上げていく。学生募集データベースについても、移管が完了し、更に効率化を図っていく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	キャリアサポーターとして認定されている職員が2名いる。また、教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形での教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問17 2.61】
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。 【教職員アンケート 質問23 2.61】
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積み取り組みをしている。また、全教職員に対して、一般的な指導力向上のための研修を定期的に行っている。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	1月、3月に全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。

①課題

社会の変化や学生の多様化等に配慮した教員の資質向上は、今後も本校の重要課題として対応する。

②今後の改善方策

年3回の学園合同の教職員研修会では、学科より講師を選任し、学科間の理解を深め、自学科の指導力強化につなげていく。学園・学校の喫緊の課題解決につながるテーマでの研修を継続する。
新しい担当科目を積極的に習得させることで、学科全体の問題点の理解を促していく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	資格取得率の向上は図られている。国家資格試験の合格率は、全体的に全国平均以上の結果である。 【教職員アンケート 質問28 2.75】 【学生アンケート 質問3 3.06】 平均 2.91
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題を抱える学生およびその家族とは頻繁に面談を行い、退学率の低減に努めている。 【教職員アンケート 質問29 2.46】 【学生アンケート 質問4 2.68】 平均 2.57
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立てている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。同窓会組織のない学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問31 2.21】 【学生アンケート 質問6 2.68】 平均 2.45

①課題

卒業生へのフォローについては、課題がある。
本年度から、「卒後教育」を始めた学科があるが学科間での差異が大きく、「学校としての動き」にはできていない。

②今後の改善方策

引き続き、卒後教育担当者を中心に卒業生のネットワークを広げていく。
「卒業生」講和などキャリア教育を進める。
広報募集媒体についても、卒業後のキャリア形成を特集していく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1

①課題

学生支援については概ね良好と評価している。
しかし、生活支援について課題が残っており、解決に向けて努力していく。

②今後の改善方策

本年度から、高等教育無償化対象機関に認定されており、在校生も含めて広く周知を図っていく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	3	2	1
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3	2	1

①課題

設備・施設に対するアンケート回答では, 教職員の不足感が改善されてきているが, 各種備品の老朽化など課題もある。

②今後の改善方策

在校生数減少による学校財務の許容される範囲内で, 安定した教育環境の構築に向けて設備投資を進めていく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・学生募集活動は, 適正に行われているか。	4	3	2	1
・学生募集活動において, 教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1

高校新卒者の募集にあたって, 入学試験を10月以降に実施しているが, 出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他, 学生募集は適正に行われている。

学生募集活動において, 卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など, 正確に伝えられている。
【教職員アンケート 質問46 3.11】

本校の学納金は, 同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。
【教職員アンケート 質問47 2.93】
【学生アンケート 質問19 2.80, 質問20 2.77】
平均 2.83

①課題

専門学校入学者数は全国的に減少しており, その中でも本校学科分野は減少幅が大きい分野となっている。学校認知と並行して, 職業理解を進め潜在的なニーズの掘り起こしを進めていく。福岡競合校の県内高校に対する募集活動も活発化しており, 創意工夫が必要である。

②今後の改善方策

募集活動全体の変化に対応していく。具体的には, ガイダンス等で接触する機会が減少することを想定し, SNSなどで学校情報を配信し, 進路先として信頼されるように, 学校全体として取り組んでいく。また, 留学生について積極的に受け入れていく。

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	少子高齢化の中, 入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに, 経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	予算作成に際して, 理事長査定を実施し, 適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1	適時, 内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	HPでの情報公開等しっかりと対応できている。

①課題

学生数が横ばいとなっていて, 入学者についても横ばいになっているため, 財務状況に課題がある。

②今後の改善方策

収入は, 募集だけではなく, 付帯事業等での収入を増やすことで改善を図る。
支出は, 比率の高い人件費, 奨学費, 広報費を中心に削減を図る。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。 【教職員アンケート 質問53 2.93】
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部局, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。 【教職員アンケート 質問54 2.68】
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

①課題

サーバー設置移行が完了し, また、募集に関するデータベースの移管も完了した。
個人情報についてセキュリティは強化されているが, 運用上の組織的な管理方法について課題が残る。

②今後の改善方策

個人情報保護について, 再度必要性を周知し, 運用ルールの理解徹底に努めていく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	3	2	1	外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	3	2	1	ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。 【教職員アンケート 質問57 3.11】 【学生アンケート 質問21 2.91】 平均 3.01
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4	3	2	1	職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。

①課題

ボランティア活動については、本年度から「地域創生委員会」を設置したことにより、概ね活動できている。しかし、参加学生は限られているなど、今後は学校として学生・教職員一体となって取り組む必要がある。

②今後の改善方策

スポーツ系ボランティア活動については、引き続き「ココサポ(KokoroTrainersClub)」により派遣を重ねていく。各学科長を中心に、校外活動には積極的に参加し、学園ビジョンの実現を図っていく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2 1
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2 1
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2 1

①課題

留学生在籍者数が、年々増加するにあたり、慣習の違い等による問題事例も発生している。
また、留学生の日本語力に格差が大きく、いかに計画的に指導していくのか等の組織として対応できる体制づくりが急務である。

②今後の改善方策

留学生生活指導担当者を選任し、学内及び学外での留学生指導及び管理を進めている。
学校の所在している地域自治会とのかかわりを大切にし、地域の中で学生を育てていけるように相互協力体制を更に構築する。

③特記事項

無し

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成31年度(令和元年度)重点目標に対する総括

(1) 授業の充実と教育の質の向上

① 「授業の質」の向上を通じた学生や保護者の願いに応える教育の推進

学生支援については概ね向上している。特に、国家試験合格に向けて力を注ぐ時間は従来より大幅に増加している。少しずつ、「授業の充実」を中心においた学級経営により国家試験等にも成果が見られてきている。

② 教員の「授業研究」の推進と「学級経営力」と「学生指導力」のアップ

経験年数が長くなってきている教員が多くなっており、学生に対応できる授業の幅は広がっている。今後はより担当できる科目を増やし、学科全体の科目を理解することで、指導力の向上に努めていく。また、育成機関であっても、学生の実態からみれば、学習の意識化、基本的生活習慣の確立のためにも、担任の学級経営力を更に高めていきたい。

③ 学生の多様化・学力低下傾向に対する早期対応策と粘り強い指導の推進

学生の多様化は顕著になってきている。問題の端緒となる兆候は見逃さず早めの対応に引き続き努めていく。

(2) 豊かな人間力の育成

① 学級経営の充実と学生同士の人間関係、学生と教職員の信頼関係の構築

学生の多様化により簡単に解決できない問題があるが、粘り強く指導にあたり信頼関係の構築に努めていかなければならない。

② 学園理念を意図した社会貢献活動と地域交流及びトレーナー活動等の推進

教職員を中心に地域交流やトレーナー活動は再び動き出すことができおり、地域の期待も大きい。

(3) 退学者・不登校生の減少対策

① 個別面談(年3回以上)実施と学生一人ひとりの存在感を高める指導

中退率防止のため、個別相談等の早めのかかわりは実行できている。

② 定期的な「悩み調査」(年3回)の実施と学生理解の深化

学力指導不足による退学者は減少できているが、全体的な中退率目標到達には至らず課題が残っている。

(4) 留学生教育の質の向上

① 日本語指導力と日本語検定能力試験合格率の向上

日本語検定能力試験の結果が伸び悩み、日本語科の組織としての指導方法の改善が必要である。

② 寮生活を含めた留学生の基本的生活習慣の確立と学園内連携の強化

学生数が増加しているが問題事例は極めて少ない。学生の基本的生活習慣の確立には至っておらず継続的な指導が必要である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成31年度(令和元年度)重点目標に対する総括

(5) 国家試験・進路指導の充実

① 国家試験対策

○各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
「学科長ヒアリング」により期中での指導計画の修正など可動的に対応し、成果に繋がる対応ができた。

国家試験合格率は、年々向上しているが、低学力対策にも力を入れていく。

○「模擬試験結果分析会」と「学力検討会」の充実と個別面談の実施

定期的に「学科長ヒアリング」を実施しているが、分析及び検討会の充実までは至っていない。引き続き、学科任せではない指導計画を進めていく。

② 就職対策

○個別面談と年間指導計画に基づいた就職指導と「キャリア教育」の推進
各学科とも学生への個別面談は概ね順調にできている。

○「卒後教育」の充実

「卒後教育担当者委員会」で年間スケジュールを確定し進めていくことができている。しかし、学科間の差異が大きいことから、次年度に向けては学校全体として動きを加速させていく。

(6) 「攻めの学生募集」の推進

① 高校との関係強化と信頼関係の構築-学校訪問・情報提供・広報啓発等
高校との信頼関係は、確実に深まっている。

② 学校体制としての学生募集の推進

「広報支援委員会」を中心に、ガイダンスへ教員派遣等進めていくことができている。「学校体制の募集」という点でも概ね順調に進んでいるが、募集戦略自体の見直しが必須であり、引き続き募集戦略について、教職員に理解を求めて学生募集に繋げていく。

③ 学生募集「強化校」としての拠点づくり

募集活動全体の主導は進んでいるが、競合校が多い長崎エリアで自校募集活動で苦戦しているのが現状。グループ内他校では市場が異なり違う戦術を実施することで募集活動が順調に進んでいるため、それぞれ戦術を異なるものとしていく。

(7) 「委員会制」の導入による学校活性化

① 学校自己評価(年2回)による問題解決と学校活性化

学校自己評価により課題があぶり出されており、引き続き改善に努めていく。

② 「組織として機能する学校づくり」と職員個人のスキルアップ

職員数を減少させ、職員一人ひとりあたりの職域を広げていくことでスキルは向上している。今後の課題としては、ミドル社員の養成が急務である。

1. 学校の教育目標 令和2年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン 各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
 - (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
 - (2)国家試験合格率及び就職率100%達成
 - (3)「委員会制」の充実による学校活性化
 - (4)留学生指導の充実とJLPT3級以上合格者の増加
 - (5)学校体制として取り組む学生募集-最低確保学生数:130名
- 5 具体的な対策
 - (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
 - (2)豊かな人間力の育成
 - (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4)国家試験・進路指導の充実
 - (5)「委員会制」の導入による学校活性化
 - (6)留学生教育の質の向上
 - (7)「攻めの学生募集」の推進
- 6 地域社会との関係
 - (1)学園理念「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (2)関係各校, 機関, 施設との連携強化

2. 令和2年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
 - ①日常の「授業の質」の向上を通した学生や保護者の願いに応える教育の推進
 - ②学生の「意志ある学び」に繋ぐ教員の学級経営力と学生指導力の向上
 - ③学生の多様化・学力低下傾向に対する対応と粘り強い指導の推進
- (2)豊かな人間力の育成
 - ①学級経営の充実と学生間の人間関係、学生と教職員の信頼関係の構築
 - ②学園理念を意図した社会貢献活動と地域交流等の推進
- (3)退学者・不登校生の減少対策
 - ①個別面談(年3回以上)実施と学生一人ひとりの存在感を高める指導
 - ②定期的な「悩み調査」(年3回)の実施と学生理解の深化
- (4)国家試験・進路指導の充実
 - ①国家試験対策
 - 各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
 - 「模擬試験結果分析会」と「学力検討会」等の開催と「学科会」の定例化
 - ②就職対策
 - 個別面談と年間指導計画に基づいた就職指導と「キャリア教育」の推進
 - 「卒後教育」の充実
- (5)「委員会制」の導入による学校活性化
 - ①学校自己評価(年2回)による問題解決と学校活性化
 - ②「組織として機能する学校づくり」と職員一人ひとりのスキルアップ
- (6)留学生教育の質の向上
 - ①日本語能力試験での全留学生のN4以上合格達成と大学を含めた進路開拓
 - ②留学生指導体制の構築と学園内連携の強化
- (7)「攻めの学生募集」の推進
 - ①高校との関係強化と信頼関係の構築-学校訪問・情報提供・広報啓発等
 - ②学校体制としての学生募集の推進-広報課を中心に全員で取り組む学生募集